

保健体育科授業における 「楽しい体育」の実現に向けた一考察 —生徒の生涯にわたるスポーツ実施を目指して—

学籍番号 219339
氏名 川畑 雄哉
主指導教員 井上 功一
副指導教員 古和 悟

1. 背景と目的

スポーツは、国民が生涯にわたり心身ともに健康で文化的な生活を営む上で不可欠のもの（文部科学省、2011）であり、生涯にわたるスポーツ実施が人々の心身の健康の保持増進に欠かせないことであるというのは明らかである。中学校学習指導要領（文部科学省、2017）でも「生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力」を育成することを保健体育の目標として掲げている。体育科教員は、体育の授業等を通じて、運動好きな子供や日常から運動に親しむ子供を増加させ、生涯にわたって運動やスポーツを継続し、心身共に健康で幸福な生活を営むことができる資質や能力の育成を図っていかねばならない（文部科学省、2022）。また、学習指導要領では、「運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わうこと」が保健体育の目標として掲げられている。このように、学校体育では「楽しさ」を得ることが重要なポイントとして捉えられていることがわかる。本研究では、生涯にわたるスポーツ実施を目指した保健体育科授業における「楽しい体育」の実現に向け、生徒の楽しさの獲得のための方策についての考察を行うことを目的とした。

2. 研究方法

2.1 対象

0市立中学校第3学年の生徒 110名（男子46名、女子64名）

2.2 方法

- ①陸上競技の授業実践（対象者：走り高跳び88名、ハードル走87名）
- ②質問紙調査（有効回答数：87名）

3. 授業実践及び質問紙調査

3.1 授業実践

本研究では、「技能の習得」が「楽しい体育」を構成する最も重要な要素であると仮定し、対象校で技能の習得を目指した授業実践を行った。そのために、①トップ選手の動画の視聴②

ドリルなどによる基本的な動きの確認③毎時間の技能ポイントの確認④技能ポイントを活動中に確認できるようにする⑤ハードルの高さやインターバルの工夫⑥器具の工夫⑦上手な生徒の実践⑧苦手な生徒への直接的な声かけ⑨記録以外での評価の9つの支援を行った。授業後の生徒の自己評価では、「陸上競技を楽しむことができた」などといった前向きな回答が大半を占めた。また、陸上競技を楽しむことができたと回答した生徒の方が走り高跳び・ハードル走の記録が優れていたということも明らかになり、授業の充実度は技能や記録に大きな影響を受けていることが分かった。また、振り返りシートの記述の分析を行ったところ、技能・記録に関する記述、感情に関する記録が多く、ここでも技能や記録が授業内で大きな意味を持つことが分かる。次いで自己比較に関する記述が多く、過去の自身の記録等と比較した記述が多かった。また、これらの記述は記録が高い生徒の方が多い傾向にあることもわかった。

3.2 質問紙調査

対象校の3年生に対して、「体育授業に関するアンケート」を実施した。体育授業の各領域・種目それぞれに対して、13の項目で楽しい理由を問うことを目的とした。上位を占めたのは「①体を動かすことが楽しいから」であったことから、対象校の授業では体育の本質を楽しむことができている生徒が多いということがいえる。次に多かったのが「⑧友達と運動することが楽しいから」「⑨友達と話したり、協力したりすることが楽しいから」などの理由で、体育の授業の中での友達との交流が体育の授業の楽しさに影響を及ぼしているということもいえる。一方で、下位に位置したのは「⑪先生に褒められるから」や「⑩友達から応援されたり、褒められたりするから」であり、体育の授業内で他者から褒めてもらうことや認めてもらうことが少ないと生徒が感じていることがわかる。また、「⑤友達と競い合うのが楽しいから」「⑥勝つことや人よりも上手にできること、記録がいいことが嬉しいから」などの理由もあり、体育の授業で他者と比べることで楽しさを感じるということが少ないことがいえる。

4. 考察

技能や記録の向上で生徒が「できる」と感じることで体育授業を楽しんでいることに直結するといえる。そのために、専門的な指導はもちろん、活動時間を確保することや個人で比較できるような取り組みを行っていくことが求められることがわかった。しかし、体育が嫌い・苦手な生徒も一定数おり、授業への参加ができていない場合もある。授業内での生徒同士のかかわりや教員の積極的な声かけを通じてそういった生徒を巻き込んでいくような授業展開を実現し、生徒全員が楽しむことのできる体育授業を目指していく必要がある。それが、生徒が体育の授業以外や学校卒業後にスポーツを続けていくきっかけになり、生涯スポーツへのきっかけになりうるといえる。

参考・引用文献

- [1] 文部科学省 (2011) 『スポーツ基本法』
- [2] 文部科学省 (2017) 『中学校学習指導要領 (平成29年告示) 』 「東山書房」
- [3] 文部科学省 (2022) 『第3期スポーツ基本計画』